

# 中国語の“可以”と日本語の「てもいい」の違いに関する対照研究 —基本的意味と場面的意味を中心に—

斬 博 宇

## 要旨

本研究は、中国語の能願動詞“可以”を日本語の複合形式「てもいい」と比べ、機能及び共通点と相違点の考察を行った。“可以”と「てもいい」は「許可（許可与え／許可求め）」を表す点で共通している。しかし、話し手が聞き手にとって望ましいことを提案する場合には、“可以”が使えて、「てもいい」が使えない。一方、当該事態に対し、話し手が話し手にとって望ましくないことを受け入れる場合には、「てもいい」が使えて、“可以”が使えない。本研究は、両形式にこのような相違が生じたのはそれぞれ違う基本的意味を持つからと主張する。「てもいい」の基本的意味は「当該事態を受け入れる」である。それに対し、“可以”は日本語の助動詞に当たる能願動詞であり、基本的意味は「当該事態に実現の可能性がある」である。中国語には能願動詞“可以”に加え、形容詞“可以”が見られる。形容詞の“可以”は、話し手の評価を表すものであり、前に副詞“也”を伴って、「当該事態を受け入れる」という「てもいい」に相当する意味を表すことができる。

## 1. はじめに

日本語の「てもいい」と中国語の“可以”はお互いの訳としてよく使われている。例えば、(1)のように平叙文で用いられ話し手が聞き手に許可を与える場合、また(2)のように疑問文で用いられ話し手が聞き手の許可を求める場合に日本語の「てもいい」と中国語の“可以”はその意味を表すことができる。

- (1) この駐車場を使ってもいいです。  
 (你 可以 用 这里的 停车场)  
 あなた 可能 使用 この 駐車場
- (2) (授業中) 先生、トイレに行ってもいいですか。  
 (老师, 我 可以 去 厕所 吗?)  
 先生 私 可能 行く トイレ 語気助詞

しかし、「てもいい」と“可以”は(1)、(2)のよ

うに、両形式がともに使える場合もあれば、(3)のような「てもいい」が使えて“可以”が使えない場合と、(4)のような“可以”が使えて「てもいい」が使えない場合もある。

- (3) あんな学校へ行きたくないから、試験に失敗してもいい。  
 (3') #我 不 想 去 那 样 的 学校, 所以 考试 可以 失败。  
 私 否定 願望 行く そんな の 学校、だから 試験 可能 失敗  
 (#そんな学校へ行きたくないから、試験に失敗することができる)
- (4) 这本书 很 有意思, 你 可以 看看。  
 この 数量詞 本 とても おもしろい、あなた 可能 見る
- (4'a) #この本はおもしろいから、君読んでもいい。  
 (4'b) この本はおもしろいから、君読んでみたら。

(3)の「試験に失敗する」という事態は話し手にとって望ましくない事態であり、話し手が事態の実現を受け入れることを表している。一方、(4)の“你可以看看”は、話し手が内容の面白い本を聞き手に読むよう提案することを表している。本研究は、「てもいい」と“可以”のそれぞれの機能及び用法の特徴を分析し、なぜ(1)、(2)のような両形式ともに使える場合と(3)、(4)のように一方の形式しか使えない場合があるのかについて考察していく。

## 2. 「てもいい」と“可以”の比較対照

本研究は、両形式の機能及び用法をより具体的に分析するために、形式の意味を基本的意味と場面的意味に分けて考え、それぞれ次のように定義する。

- (5) 「基本的意味」当該形式のすべての場面的意味に共通している意味である。

(6) 「場面的意味」ある条件を満たした場面で表された意味である。

これに基づいて、2.1 は両形式の基本的意味、2.2 は両形式の場面的意味を考察し、両形式にはどのような相違があるのか明らかにしていく。

## 2.1 基本的意味

高梨 (2010) は、「でもいい」の用法は「ても」の用法と平行して、並列条件的なものと逆条件的なものがあるとし、通常、逆条件の読みが優先されると述べている。高梨 (2010) は (7a)、(7b) をあげて、以下のように述べている。

(7) a. [= 高梨の (83)] 動物園へはバスで行ってもいいし、地下鉄で行ってもいい。

b. [= 高梨の (84)] 明日は日曜だから、昼まで寝ていてもいい。

(84) の「いい」は肯定評価というより「許容」といった消極的な認め方にとどまっているだろう。逆条件的とは、通常肯定評価の対象にならないような事態 ((84) では「昼まで寝ている」) をあえて「いい」と述べることであり、そこから文字通りに「肯定」ではない消極的なニュアンスが生じるものと思われる。

「ても」で逆条件の読みが優先されることに並行し、「でもいい」も通常は「許容」と解釈される。(83) のように明示的に事態が並列している場合はむしろ例外として別扱いが必要だと思われる。以上のことから、「でもいい」の基本的意味は次のように捉えられる。

(85) 「でもいい」の基本的意味

当該事態が許容されることを表す。

(高梨 2010 : 69)

場面的意味の分析にあたって、本研究は、高梨 (2010) と同じように、並列用法の「でもいい」と逆条件の「てもいい」を別扱いにする。並列用法は、(7a) のように話し手が「ても」の前の事態に形容詞「いい」を使って、自分の評価を表すものである。それに対して、逆条件は本研究において、記述の便宜上、逆接用法と呼び、(7b) のような話し手が当該事態を受け入れることを表すものである。本研究は、「でもいい」の逆接用法を対象とする。

逆接用法は、通常評価できない事態にあえて「いい」と評価する消極的な認め方である。通常評価できない事態を認めるというのは、すなわち、話し手にとって望ましくない事態を受け入れることである。しかし、基本的意味が「話し手にとって望ましくない事態を受け入れる」という意味と捉えるべきか、もう少し考える必要がある。例えば、(8)、(9) のような「ても」の前の事態は、話し手にとって望ましくない事態とは言いにくい。

(8) みんな忙しいのなら、私が行ってもいいです。

(9) 泊まる場所がなければ、うちに泊まってもいいよ。

(8) の「私が行く」こと、(9) の「うちに泊まる」ことは、話し手にとって望ましくない事態を受け入れるという消極的な意味というより、ただ話し手が事態を受け入れることを表明する意味に留まると考えるほうが妥当であろう。しかし、高梨 (2010) は表 1 のケース (b) の場面的意味である「許容」と基本的意味の「当該事態が許容される」の違いについては言及していない。本研究は「でもいい」の基本的意味が「当該事態が許容される」であることに賛成する。ただし、基本的意味と場面的意味を区別するために、基本的意味を「当該事態を受け入れる」と捉え、当該事態は話し手にとっては望ましいかどうかに関係がないと考える。

一方、能願動詞「可以」は、「能」、「会」と同じ、可能を表すものとされている。従来の多くの研究では、「可以」の場面的意味を中心に分析をされるものが多く、「可以」の基本的意味に言及しているものは管見の限りそれほど多くない。朱 (1995) は、可能の状況を①行為主体の能力がある事態を達成できるか否かを言う、②外界の可能性を言う、③状況としてあるいは道理として許可され得ることを表す、と 3 つに分けている。また、日本語と中国語の対照研究に李 (2010) がある。李 (2010) は、「可以」の基本的意味を「でもいい」と同じ「許容」だと捉え、「当該事態は実現が許される (妨げられない、受け入れ可能である)」という意味であると述べている。しかし、「でもいい」と「可以」が同じ基本的意味「許容」を持っているなら、違う場面的意味を持つことが説明できない。そのため、本研究では、朱 (1995) に従って、「可以」の基本的意味を「当該事態に実現の可能性があると捉える」<sup>1</sup>。

2.2 から、「でもいい」と「可以」それぞれの基本的意味に基づいて、各場面的意味にどのような違いがあ

<sup>1</sup> なお、高梨 (2010) は上述の「でもいい」の基本的意味の定義において「許容」という用語を使っているが、表 1 に見るように場面的意味の名称としても「許容」という用語を使っている。李 (2010) は、基本的意味の名称として「許容」という用語を使い、場面的意味の名称として「容認」という異なる用語を使っている。本研究では、「許容」を場面的意味の名称として用いる。

るのか分析していく。

## 2.2 場面的意味

高梨 (2010) は、表 1 のように①当該事態制御が可能かどうか、②当該事態は未実現か、非実現か、③行為者の人称という 3 つのファクターによって、「てもいい」の場面的意味を (a)、(b)、(c)、(d) と 4 つのケースに分け、場面的意味は「許可」「意向」「許容」「後悔」「不満」と 5 つあると述べている。ケース (a) では、当該事態は制御可能かつ未実現な事態で、行為者が聞き手の場合、「てもいい」は「許可」を表す。一方、行為者が話し手の場合は「意向」を表すことになる。ケース (b) では、当該事態は制御不可能かつ未実現な事態の場合、「てもいい」はその基本的意味である「許容」をそのまま表すことになる。ケース (a)、(b) はともに未実現な事態であるのに対し、ケース (c)、(d) はいずれも非実現 (反事実<sup>2</sup>) な事態である。ケース (c) は、当該事態が制御可能かつ非実現の場合、ケース (d) は、当該事態が制御不可能かつ非実現の場合である。

表 1 高梨 (2010) 「てもいい」の場面的意味

		① 当該事態の制御可能性	
		制御可能→〈当為判断〉	制御不可能
② 当該事態の実現性	未実現	② 行為者の人称 聞き手→行為要求 →〈許可〉 聞き手以外 話し手→〈意向〉 (a)	〈許容〉 (b)
	非実現 ↓ 〈反事実〉	③ 行為者の人称 話し手→〈後悔〉 話し手以外→〈不満〉 (c)	〈不満〉 (d)

(高梨 2010 : 70)

一方、中国語の“可以”の場面的意味について書かれたものには朱 (1995)、劉 (2001)、呂 (2008) などがある。

朱 (1995) は、2.1 で述べたように、“可以”を①行為主体の能力がある事態を達成できるか否かを言う、②外界の可能性を言う、③状況としてあるいは道理として許可され得ることを表す、と 3 つに分類した。呂 (1999) は、「可能」「用途」「許可」「値打ちがある」と 4 つに分類している。劉 (2001) は、能願動詞“可以”を「可能」「許可」「価値がある」と 3 つに分類している。その中、呂 (1999) は、「用途」以外、「可能」、「許可」、「値打ちがある」と 3 つの場面的意味が劉 (2001) と共通している。

高梨 (2010) は、基本的意味と場面的意味を分けて

分析する点で価値がある。形式の場面的意味を分析するにあたって、本研究は高梨 (2010) のファクターを参考に、考察していく。

### 2.2.1 「許可」

「許可」は日本語の「てもいい」と中国語の“可以”の中に共通している場面的意味である。「許可」を表す場合、両形式は常にお互いの訳として使われている。高梨 (2010) は、当該事態が制御可能で未実現の場合、かつ行為者が聞き手であると「てもいい」は (10)、(11) のような聞き手に「許可」を与える文になるとし、また、(12) のような行為者が話し手である質問文の場合、話し手の行為を聞き手が許容できるかどうかを尋ねることから、「許可」を求める文になると捉えている。

- (10) 「そんなに塾に行きたいのなら行ってもいいよ」  
(長谷健『あさくさの子供』)
- (11) 「あんたら、おっかなかつたら、入ってもいいよ」  
(向田邦子『男眉』)
- (12) 「ビール、もらってもいい？」奈美江は訊いた。  
(東野圭吾『白夜行』)

本研究は、許可を与えるという行為は、通常行為の実現を決定する権利を持つ、つまり当該事態が制御できる者が行うため、聞き手に与えたのもその行為の実現する権利であると考えている。例えば、(10) は、話し手が「塾へ行きたい」という聞き手の行為を受け入れ、当該行為の実現を決定する権利を聞き手に与えている。(11) も「入る」という権利を聞き手に与えていると考えられる。また、(12) のような許可を求める場合は、話し手が聞き手に求めるのも、聞き手が持つ話し手の行為の実現を決定する権利である。すなわち、権利を持つ者は、自分に許可を求める人にとって、行為の実現を妨げるような存在であり、その行為を受け入れて、行為の実現を妨げないと言わない限り、当該行為の行為者は行為を実現するのは難しいであろう。これが日本語「てもいい」の「許可」である。

一方、中国語“可以”の「許可」について、劉 (2001) は、劉 (1996) をもとに、さらに「許可」を (13)、(14)、(15) のような「情理的許可」と (16)、(17) のような「允許」に分けている。(13)、(14)、(15) のグロス筆者によるもの、日本語訳は劉 (1996) によるものである。(16) 以降はグロス、日本語訳とも筆者によるものである。

- (13) 大家说：“可以 把石头 扔 到海里 去！”  
皆 言う 可能 を 石 捨てる に 海中 方向

<sup>2</sup> 実現しなかった事態を、必要妥当なものとして評価する。

- (皆は「石を海へ投げればいいさ!」と言った)
- (14) 休息室 里 可以 吸烟。  
 休憩室 中 可能 喫煙  
 (休憩室ではタバコを吸ってもよい)
- (15) 这儿 可以 吸烟 吗?  
 ここ 可能 喫煙 語気助詞  
 (ここは煙草を吸ってもいいですか)  
 不行。  
 だめ  
 (だめです)

(劉 1996 : 158)

- (16) “先生, 可以 放 我 出去 了 吗?”  
 男性敬称 可能 解放 私 出 変 化 語気助詞  
 (「旦那さま、もう私を出していただいてもいいですか<sup>3</sup>?)」)
- (17) (敲门) 可以 进来 吗?  
 可能 入 語気助詞  
 [(ノックする) 入ってもいいですか]

(劉 2001 : 182)

劉 (2001) はそれぞれの定義についての説明をしていない。本研究において、「情理的許可」は人情や道理といった客観的条件、もしくは外界的条件からその行為の実行が可能であると考えられる。例えば、(13)の「石を海に投げる」ことが可能となるのは、禁止する規則という客観的条件が存在しないため、(14)の「休憩室でタバコを吸う」ことが可能だと言ったのも、規則など外界的条件から許されるためである。また、(15)は質問文で、話し手が聞き手に「許可」を求めているのではなく、客観的条件から自分の行為の実行が可能かどうかを聞いている。そのため、返答の“不行”も話し手の個人的な許可ではなく、客観的条件からその行為の実行が不可能であると示している。

それに対して、「允許」は個人的な許可である。すなわち、当該行為の実現する権利を持つ者がその行為の実現を求める者に対し、実現する権利を与えるものである。質問文の形で話し手が聞き手に許可を求める。平叙肯定文の形で話し手が聞き手に許可を与える点が日本語の「てもいい」と同じである。

しかし、「てもいい」と“可以”はいずれも「許可」という場面的意味を持つが、形式の基本的意味の違いによって中心となる意味が異なっている。日本語の「てもいい」は、話し手が当該事態を受け入れ、その事態を実現する権利を聞き手に与えるのに対して、中国語の“可以”は、話し手が当該事態の実行が可能であることを行為者に伝えるものである。同様に、質問文で「てもいい」は、話し手が聞き手に実態の実現を受け

入れるかどうか、“可以”は、聞き手に当該事態の実行が可能かどうかを尋ねている。そのため、(16)は、話し手が聞き手に「出してくれる」ことの実行が可能かどうか、(17)は、話し手が「入る」ことの実行が可能かどうかを聞き手に尋ねているものである。中国語の“可以”は「当該事態に実現の可能性がある」、日本語の「てもいい」は「当該事態を受け入れる」とそれぞれ違う基本的意味を持つため、同じ「許可」でも、話し手が聞き手に与えるもの、もしくは聞き手に求めるものは違う。

なお、許可を与える行為について、本研究は、通常聞き手が話し手に許可を求める際に生じた行為だと考え、聞き手からの求めがなければ、日本語の「てもいい」はただ話し手の受け入れ、中国語の“可以”は話し手が事態の実現に可能性があることを示すものである。また、(18)のように許可を与える際に、話し手は通常当該事態の実現を決定する権利の所有者であるため、(19)、(20)のように所有者でない人物が所有者に使うと不適切になる。これは中国語と日本語は同じである。

- (18) (部下に) 先に帰ってもいいです。  
 (19) (上司に) # 先に帰ってもいいです。  
 (20) (対上司) # 您 可以 先 回去了。  
 あなた 可能 先に 帰る 変化  
 (先に帰ることができる)

(18)は、上司が部下の「先に帰る」という行為を受け入れて、その事態の実現する権利を聞き手に与える文である。それに対して、(19)は、通常部下が上司の行為の実現を受け入れるしかないのに、わざわざ上司に当該事態の実現を受け入れることを伝えているから、また、(20)は、部下が上司の行為の実現を妨げようがないのに、わざわざ上司にその事態の実行が可能であり、その実現を妨げないと伝えているから、(19)は(20)とともに不適切な文になる。

ところが、“可以”は(21)のような客観的条件から話し手が当該事態の実行が可能だと聞き手に伝える場合は使える。会社の規則や休憩室の用途といった客観的条件が存在し、話し手がただ「休憩室での喫煙は可能である」という客観的事実を述べるだけである。そのため、(21)は聞き手への「許可」というより、むしろ聞き手への「提案」と捉えたほうがいい。それに対して、(22)の「てもいい」は、話し手が聞き手の行為を受け入れるという意味しか表さないため、不適切になる。

<sup>3</sup> 中国語では聞き手が主語となる。

- (21) (対上司) 休息室 里 可以 吸烟。  
 休憩室 中 可能 喫煙  
 (休憩室でタバコを吸うことができます)
- (22) (上司に) # 休憩室でタバコを吸ってもいいですよ。

また、(20)の“可以”は、(23)のような話し手が自分の車で送ることを提案する場合に使える。それは、“可以”に「当該事態に実現の可能性がある」という基本的意味があるからである。それに対して、日本語の「てもいい」は「当該事態を受け入れる」という基本的意味があるため、(24)は(22)と同様に使えない。(23)の日本語訳、もしくは(25)のように「お…ください」など別の言い方にしなければならない。

- (23) (終電を逃した上司に)  
 您 可以 坐 我的车。我 送 您。  
 あなた 可能 乗る 私 の車 私 送る あなた  
 (私の車に乗ってはいかがですか。お送りします)
- (24) # 私の車に乗ってもいいです。お送りします。
- (25) 私の車にお乗りください。お送りします。

2.2.2はこのような「提案」を表す“可以”について考察していく。

### 2.2.2 「提案」

“可以”の「提案」はについて、森(2014)は、次のように述べている。

行為者は聞き手であり、当該時の実現が妨げられないことをいうばかりでなく、行為を促す意味をもつ。その動機は、当該事態の実現が望ましい、あるいは、その行為が相手にとって有益である、という話し手の肯定的な評価にある。話し手は「当該事態の実現が望ましい」という述べ方で聞き手に示すことによって、結果的にその行為の実行を聞き手に勧める機能を有するのだと考えられる。

(森 2014 : 31)

呂(1999)の「値打ちがある」と劉(2001)の「する価値がある」はいずれも話し手が実現に値するという意味を表しているものである。この点では、森(2014)の「勧め」と共通している。要するに、話し手が当該事態の実現は聞き手にとって望ましいと判断し、聞き手に当該事態の実現を提案するものである。本研究は、

“可以”の「提案」は話し手が事態の実現が聞き手にとって望ましいことに賛成する。ただし、当該事態の実現を促すまで行かないというのが本研究の見方である。

話し手が聞き手に提案するといっても、“可以”の基本的意味は当該事態に実現の可能性があるということから、婉曲な提案となる。つまり、話し手がその事態の実現が可能だと述べることに留まり、積極的に事態の実現までは聞き手に要求せず、あくまで一つの実現可能な提案として提示するだけである。話し手がその事態を実現するか否かの権利を聞き手に任せている。例えば、(26)の「この本を読む」こと、(27)の「頤和園を観光する」こと、いずれも話し手は聞き手にとって事態の実現には価値がある(望ましい)と考え、婉曲に聞き手に提案するものである。(28)の「研究する」、(29)の「見る」ことも実現可能な選択肢として話し手が聞き手に提案するものである。

- (26) 这 本书 写 得 不错, 你 可以 看看。  
 この冊本 書く 補語 悪くない あなた 可能 見てみる  
 (この本はよく書けています。読んでみたらどうですか)
- (27) 頤和園 风景 优美, 很 可以 去 游览游览。  
 頤和園 風景 美しい ととても 可能 行く 観光  
 (頤和園は風光明媚で、観光に行くにはとても価値がある)  
 (劉 2001 : 150)
- (28) 这个 问题 很 可以 研究 一番。  
 この 問題 ととても 可能 研究 時間をかけて  
 (この問題は時間をかけて研究するに値する)
- (29) 美术展览 倒 可以 看看。  
 美術展 むしろ 可能 見てみる  
 「ほかのものと比べて) 美術展のほうが見てみる価値がある」  
 (呂 1999 : 338)

“可以”は、このような「提案」を表す場合、“可以”の前に“很”、“倒”のような副詞と一緒に使うことが多い。これらは、能願動詞の前に置かれ、能願動詞“可以”を強調する役割を果たしている。また、“可以”の後ろにもよく(26)、(27)、(29)のような動詞の重ね型<sup>4</sup>、(28)のような動量詞<sup>5</sup>をつける。

話し手が聞き手に提案する際に、一つの可能な選択肢を聞き手に提示することについて、本研究は、同じ「提案」を表す“就好了”と比べて、“可以”の「提案」

<sup>4</sup> 動作の時間や回数が少量であることを表す。語気を和らげためによく用いられる。

<sup>5</sup> 述部の後ろについて動作や行為の回数を表すための量詞である。

の特徴を考察する。考察にあたって、話し手が提案した事態をP、ほかの可能な事態を～Pだとする。

(30) 这个 菜 很 好吃, 你 可以 尝一尝。

この料理とてもおいしいあなた可能食べてみる  
(この料理おいしいよ、食べてごらん)

(31) 你 可以 跟他 商量一下。

あなた可能と彼相談してみる  
(彼と相談するといい)

(森 2014 : 32)

例えば、(30) は、この料理を食べたことがない聞き手に話し手は～P「食べない」という選択を否定せずに、そのほかにP「食べる」という話し手が望ましいと判断する選択を提示する。(31) は、相談する相手が未だに見つからず、あるいはほかの誰かに相談しようと思っている聞き手に、話し手が聞き手の取りうる選択を否定せずに、相談する価値がある「彼」に相談することに妨げられるものはないと提案している。

一方、「可以」より、「就好了」は、聞き手に～Pという選択にする必要がないという含みがある。積極的に聞き手に勧める場合によく使われる。次の(33)は、聞き手が相談する相手として、話し手が「彼」以外の選択を否定しないが、聞き手が「彼」以外の選択にする必要がないと言っている。すなわち、(31) の「可以」と比べると、話し手が提案した「彼」を聞き手に選択してほしいという気持ちがある。(33) も、ほかの選択「天安門」、「万里の長城」なども有名な場所ではあるが、一か所しか行けないのなら「頤和園」だけで十分だという話し手の気持ちを聞き手に伝えている。

(32) 你 跟他 商量一下 就 好 了。

あなたと彼相談してみるといい完了  
(彼に相談すればいい)

(33) 你 去 頤和園 就 好 了。

あなた行く頤和園といい完了  
(頤和園に行けばいい)

以上から、「可以」と「就好了」の関係を(34)のようにまとめられる。

(34) “可 以” : P (と～P) は (ともに) 実現可能である  
“就 好 了” : ～P は否定しないが、する必要がない

場面的意味の「提案」は、聞き手の行為であり、話し手が聞き手にとって当該事態の実現が望ましいと判断し、勧めるものである。「可以」は「当該事態に実現

の可能性がある」という基本的意味があるため、積極的に提案する“就好了”と比べたら、話し手が一つ実現可能な事態を提案する“可以”のほうがより婉曲である。

それに対して、逆接用法の「でもいい」の基本的意味は「当該事態を受け入れる」であるため、当該事態に実現の可能性があることを提案する意味が表せない。しかし、(35)、(36) のように並列条件の「でもいい」は「提案」に近い意味を表すことができる。

(35) 動物園へはバスで行ってもいいし、地下鉄で行ってもいい。

(高梨 2010 : 69)

(36) この魚はどう料理したらいいだろう。

—焼いてもいいし、煮てもいいよ。

日本語の「でもいい」の並列条件は、(36) のような「バスで行く」、「地下鉄で行く」という2つの事態を話し手が受け入れる場合ではなく、いずれの事態もいと評価する場合である。日本語の「でもいい」は「ても+いい」という複合形式の特徴を持つため、文法化の度合いが低く、「ても」に先行する事態に両方も肯定評価を述べることができる。しかし、この場合は、聞き手にとって望ましい、かつ実現が可能な事態を婉曲に提案する“可以”と違って、並列条件の「でもいい」は事態の実現にあたって、聞き手にとっての望ましさが含まれずに、ただ話し手がいいと思うことを表明することに留まると考える。そのため、本研究は、この場合の「でもいい」の機能を“可以”による「提案」と区別し、より婉曲な「意見表明」と捉える。

グループ・ジャマシイ (1998) は、「でもいい」は「てもよかった」の形になると、「ても」に先行する過去の事態は当時選択の余地はあったが、そうはしなかったという意味を表すとしている。後述するが、高梨 (2010) は、当該事態は非実現で、行為者が話し手の場合、話し手の後悔、行為者は聞き手の場合、話し手の聞き手への不満を表すと捉えている。詳しくは2.2.6「後悔・不満」で考察する。

このように、「でもいい」を並列的に使い、話し手が聞き手に自分の意見を表明する用法は、(37) のように中国語の能願動詞“可以”にも見られる。しかし、能願動詞“可以”は、並列条件の「でもいい」のようにいずれの事態に話し手が「いい」という自分の評価を表すものではなく、基本的意味は「当該事態に実現の可能性がある」であるため、(37) のように並列的に使っても、いずれの事態にも実現の可能性があることを聞き手に伝えるのは変わらない。つまり、(37)

の「バスに乗る」こと、「地下鉄に乗る」こと、いずれも話し手が「動物園へ行く」という事態を実現する手段としては可能だと聞き手に伝え、婉曲に提案している点は、(38)の“可以”と同じである。(37)と(38)の違いは提案したことの数だけである。

- (37) 去 动物园的话, 你 可以 坐 巴士, 也 可以 坐 地铁。  
行く 動物園 のなら あなた 可能 乗る バス も 可能 乗る 地下鉄  
(動物園へ行くなら、バスに乗っても行けるし、地下鉄に乗っても行ける)
- (38) 去 动物园的话, 你 可以 坐 巴士。  
行く 動物園 のなら あなた 可能 乗る バス  
(動物園へ行くなら、バスに乗っても行ける。)

逆接用法の「てもいい」は、並列用法の「てもいい」と違って、基本的意味は「当該事態を受け入れる」である。それに対して、並列用法は「ても」に先行する事態をいいと評価するものである。形式として同じ「てもいい」ではあるが、本研究は異なる形式として扱う。つまり、この場合の「意見表明」は、逆接用法の「てもいい」ではないと捉える。

### 2.2.3 「可能」

中国語の“可以”の基本的意味は「当該事態に実現の可能性がある」であるが、場面的意味の「可能」について、劉(2001)は、「能力可能」と「条件可能」に分けている。劉(2001)はそれぞれどう定義しているか書いていないが、本研究はそれぞれ次のように理解している。「能力可能」は、話し手に当該事態を実現するには能力という内的条件が備わっているため、事態実現が可能だと表している。例えば、(39)は「3種類の外国語を話す」能力が備わっているため、事態の実現が可能になるという意味である。

一方、「条件可能」は、(40)の「天気が暑くなった」、(41)の「部屋が広い」のような客観的条件が備わっているため、当該事態の実現が可能であることを表している。いずれの「可能」においても、事態の実現には条件がある。よって、本研究は、“可以”の場面的意味「可能」には個人的能力という内的条件と、外界的条件と2つの条件があるとする。

- (39) 他 可以 说 三种 外语。  
彼 可能 話す 三種類 外国語  
(彼は三種類の外国語が話せる)
- (40) 天气 热 了, 可以 游泳 了。

天気 暑い 変化 可能 泳ぐ 変化  
(暑くなって、泳げるようになった)

- (41) 这个 房间 很 大, 可以 住 三个人。  
この 部屋 ととても 広い 可能 住む 三人  
(この部屋は広いから、三人住むことができる)  
(劉 2001 : 149)

なお、呂(1999)は、“可以”を使った(42)、(43)のような文を「用途」としている。

- (42) 棉花 可以 织 布, 还 可以 榨 油。  
綿花 可能 織る 布 また 可能 絞る 油  
(綿花は布を織るのに使える。また油絞りにも使える)
- (43) 废纸 做 成 纸浆, 可以 再 造 纸。  
紙屑 作る なる パルプ 可能 また 作る 紙  
(紙屑を再生パルプにしたなら、また紙を作れる)

本研究は、この「用途」を「可能」だと考え、(42)は「綿花」の性質や特徴という条件が備わっているから、「布を織る」、あるいは「油を絞る」ことができることを表すと考える。また、(43)は「再生パルプを作る」という条件が備われば、「再生紙を作る」ことができるということを表していると考え。このように、“可以”は、条件が備われば、当該事態の実現が可能になるという意味が表せるが、「てもいい」の基本的意味は「当該事態を受け入れる」であるため、「可能」を表すことができない。(39)から(43)のように、動詞の可能形にしなければならない。

### 2.2.4 「意向」

高梨(2010)は、「てもいい」の「意向」は「許可」と同じ、当該事態が制御可能で未実現の場合であると述べる。行為者が聞き手になると「許可」になる。それに対して行為者が話し手自身の場合は「意向」となる。(44)、(45)は高梨(2010)が取り上げた例である。

- (44) 「(略) よかったら、夕食は私の方で何かこしらえててもいいわ」  
(林真理子『東京の女性』)
- (45) 「どうするつもり？」  
「僕が君と一緒にいたことにしてあげてもいいよ」  
(新津きよみ『殺意が見える女』)
- (46) 夕食は私の方で何かこしらえよう。  
(47) 僕が君と一緒にいたことにしてあげよう。

高梨(2010)は、「てもいい」の「意向」は、意志

形「しよう」の「意向」と性格が異なるとし、「あくまで『その行為を行うことが許容できる』という消極的な意向の表明に留まる」と述べている。「てもいい」の「意向」は、(46)、(47)のような話し手が自分の意志を積極的に聞き手に伝える「しよう」と違う。よって、本研究は、この「意向」はただ話し手が当該事態の実現を受け入れることを聞き手に伝えただけだと考える。

一方、中国語の“可以”の「意向」は、朱 (1995)、呂 (1999)、劉 (2001) に取り上げていない場面的意味ではあるが、(48)、(49)の積極的に話し手の意向を表す“我来 (V) 吧”と比べると、(50)、(51)の“可以”のほうがより婉曲である。

(48) 这件事我来(做)吧。

この数詞 こと 私 からする 語気助詞  
(この件は私がしましょう)

(49) 你有需要的话我来陪你(去)吧。

あなたある 必要の なら 私 から 付き添う あなた 行く 語気助詞

(必要であれば、私も一緒に行きましょう)

(50) 这件事我可以做。

この数詞 こと 私 可能 する  
(この件は私ができる)

(51) 你有需要的话我可以陪你去。

あなたある 必要の なら 私 可能 付き添う あなた 行く

(必要であれば、私も一緒に行くことが可能です)

“我来 (V) 吧”の“来”はもともと動詞 (来る) という意味であるが、文末の提案、勧誘の語気を表す語気助詞“吧”と一緒に使うと、「私がしましょう」という積極的な態度を聞き手に伝えることになる。それに対して、“可以”は、基本的意味は「事態の実現に可能性がある」であるため、(50)の「私がする」こと、(51)の「私も一緒に行く」ことはいずれも話し手にとって実現が可能なことを聞き手に提案することに留まり、積極的にしようとしていない。そのため、(50)、(51)は (48)、(49)より婉曲である。話し手が「意向」を表す場合、日本語の“てもいい”は中国語の“可以”と同じ、いずれも聞き手のために、話し手が自分の意向を婉曲に聞き手に伝えるものである。

## 2.2.5 「許容」

高梨 (2010) は、場面的意味の「許容」を「てもい

い」の基本的意味をそのまま表す表現としているが、本研究は、基本的意味と区別するため、場面的意味の「許容」を「話し手が話し手にとって望ましくない当該事態を受け入れる」とする。例えば、次の (52)の「死ぬ」こと、あるいは (53)の「笑われる」ことはいずれも話し手にとって望ましくない事態ではあるが、あえてそれを受け入れることを表している。一方、(54)のような話し手にとって望ましい事態を話し手が受け入れることを表すのは難しい。

(52) けれども私は、石橋の欄干に凭れ、花売りの親子を見た瞬間、「死んでもいいではないか」という気持ちになった。

(宮本輝『異国の窓から』)

(53) 「(略) 私、これから子供を育てて、自分の人生を始めなきゃならないのよ。だから笑われてもいい。力になって欲しいのよ」

(林真理子『満ちたりぬ月』)

(54) #空からお金が降って来ててもいい。

グループ・ジャマシイ (1998) は、(55)、(56)のような「てもいい」を使った文を「譲歩」と呼び、最上とはいえないが、妥協して、これでよいという意味を表すと説明している。

(55) 印かんがなければ、サインでもいいですよ。

(56) 給料がよければ、少しぐらい危険な仕事でもいい。  
(グループ・ジャマシイ 1998 : 280)

(55) は、話し手にとって「印鑑」が最も望ましいものであるが、手続きを順調に進めるために、印鑑を持っていないお客に「サインする」ことを許容し、つまり、事態の実現を受け入れるという意味を表している。お客から「サインでも大丈夫ですか」のような質問が来れば、返答として話し手が聞き手に与えた許可としての理解も可能である。また、(56)の「危険な仕事」は、話し手にとって望ましくない事態ではあるが、「給料がよい」という条件があれば、話し手が当該事態の実現を受け入れると言う意味を表している。本研究は、このような用法も「てもいい」の望ましくない事態の受け入れだと考える。

それに対して、同じ場合、中国語の“可以”は (57)のように、「サインする」ことの実現が可能で、かつ手続きを順調に進めるのに望ましいものとして、話し手が聞き手に一つ可能の案として示している意味を表す。しかし、(58)において、「てもいい」の基本的意味と違って、“可以”は「当該事態に実現の可能性がある」



という基本的意味を持つため、当該事態が「危険な仕事」のような望ましくない事態の場合、“可以”を使って、話し手が望ましくない事態を受け入れるという意味を表すことはできない。

(57) 没有印章的话, 你 可以 签字。

ない印鑑のならばあなた可能サイン  
(印鑑がなければ、サインができる)

(58) #工资好的话, 我 可以 做 有点儿 危险的工作。

給料いいのなら私可能するある少し危険の仕事  
(給料がよければ、少しぐらい危険な仕事ができる)

中国語は、話し手が望ましくない事態を受け入れるという意味を表すには、(59)、(60) のように、副詞“也”+形容詞“可以”という形にする必要がある。

(59) 没有印章的话, 你 签字 也 可以。

ない印鑑のならばあなたサインもいい  
(印鑑がなければ、サインでもいい)

(60) 工资好的话, 我做 有点儿 危险的工作 也 可以。

給料いいのなら私するある少し危険の仕事もいい  
(給料がよければ、少しぐらい危険な仕事でもいい)

形容詞の“可以”は能願動詞の“可以”と違い、述語位置にある。“好(いい)”、“坏(悪い)”のような物事や性質、能力などの良し悪しを評価するものである。しかし、副詞“也”の前は望ましくない事態であれば、形容詞“可以”は逆接用法の「てもいい」と同じように、「当該事態を認める」という消極的な意味になると考える。例えば、(59)は形容詞“可以”を使ったものであり、(57)の能願動詞“可以”の「提案」と違って、話し手が最も望ましい「印鑑」ではなく、「サインすることでもいいと認める」という意味を表している。また、(60)も話し手が「危険な仕事」という望ましくない事態を「給料がいい」という条件のもとなら、いいと認める意味を表している。

また、形容詞“可以”は、(59)、(60)のように副詞“也”を伴うほか、(61)、(62)のように、副詞“还”、“都”とも共起する。(61)の“还”は、話し手が当該事態に概ね満足できるという気持ちを表すものである。(62)の“都”は、疑問詞を伴い、人、時間、場所など「例

外なく」「すべて」という意味を表すものである。

(61) 他的 中文 还 可以。

彼の中国語 まあまあいい  
(彼の中国語はまあまあです)

(62) 你 坐 哪儿 都 可以。

あなた座る どこでもいい  
(どこに座ってもいい)

さらに、形容詞“可以”は、能願動詞“可以”ほどの場面的意味を持たず、多くの場合は“也”を伴い、(60)や(63)のように、話し手の「許容」を表す。すなわち、話し手が“也”の前の事態を何らかの条件のもとでそれを認めることを表している。

(63) 当然, 行政领导 认为 判决 有 错误, 过问 一下 也 可以。

当然 行政指導者 思う 判決 ある 誤り 聞く 少しもいい

(当然、行政指導者は判決に誤りがあると思ったら、少し聞いてもいい)

(『1998年人民日报』)

上述のほかに、形容詞“可以”は、副詞“也”を伴い、(64)のように“～也可以、～也可以”との形で並列用法の「てもいい」と同じ、話し手の「意見表明」を表すこともできる。この場合、“也”の前の事態は話し手が認めるものだと評価して、聞き手に選択肢を提示し、どうするかは聞き手に任せるという意味を表している。なお、(65)のような「地下鉄」という選択肢がない場合でも、“也”という同類のものが並列していることを表す副詞が存在するため、「バス」以外の手段を暗示する意味になる。一方、(66)のように“也”がなければ、“可以”は形容詞のため、対比の意味が生じる。つまり、「バスはいい(ですが、バス以外はだめ)」という意味になる。

並列条件的用法がある点で、(37)の能願動詞“可以”が表した「提案」と似ている。ただし、形容詞と能願動詞はそれぞれ違う意味を持つため、(37)と(64)、また(38)と(65)が表す意味が異なる。

(64) 去 动物园 的话, 坐 巴士 也 可以, 坐

地铁 也 可以。

行く 動物園 のならば 乗る バス も いい 乗る  
地下鉄 も いい

(動物園へ行くなら、バスで行ってもいいし、地下鉄で行ってもいい)。

- (65) 去 动物园 的话, 坐 巴士 也 可以。  
行く 動物園 のなら 乗る バス も いい  
(動物園へ行くなら、バスで行ってもいい)
- (66) 去 动物园 的话, 坐 巴士 可以。  
行く 動物園 のなら 乗る バス いい  
(動物園へ行くなら、バスで行くのはいい)

「許容」と「意見表明」以外には、形容詞の“可以”を使う場面は限られていて、能願動詞“可以”ほど広くはないのである。例えば、(67)、(68)のような、話し手が聞き手に許可を求める場合、また、(69)、(70)のような、話し手が聞き手に許可を与える場合、いずれの場合も形容詞“可以”が使えない。

- (67) #我 出去 可以 吗？  
私 出る いい 語気助詞  
(私が出るのはいいですか)
- (68) #我 出去 也 可以 吗？  
私 出る も いい 語気助詞  
(私が出るのもいいですか)
- (69) #你 出去 可以。  
あなた 出る いい  
(#あなたが出るのはいい)
- (70) #你 出去 也 可以。  
あなた 出る も いい  
(#あなたが出るのもいい)

中国語の形容詞は通常“很”を伴わず、単独で使うと対比の意味が生じるのである。そのため、(67)は、「(入るのはだめなら) 出るのはいいですか」、(69)は、「(入るのはだめだが) 出るのはいい」という意味になる。一方、(68)、(70)の“也可以”は、逆接用法の「もいい」ほど文法化が進んでいないため、副詞“也”がほかの同類の事態を暗示することになる。つまり、(67)は、「(ほかの人が出るのはいいなら) 私が出るのもいいですか」、(69)は、「(他の人が出るのはいいし) あなたが出るのもいい」という意味になる。いずれも「許可」とは言えない。

## 2.2.6 「後悔・不満」

高梨 (2010) は、当該事態が非実現で、かつ制御可能の場合、人称によって「後悔」か「不満」を分けている。また、制御不可能の場合、「不満」としている。本研究は、当時当該事態を実現する余地はあったが、話し手がそれを実現しなかったことを後悔したり、不満に思ったりするのは、今の話し手が当該事態の実現を望んでいるからだとし、また、「後悔・不満」は逆

接用法の「もいい」からではなく、並列用法の「もいい」から由来した意味だと考える。

例えば、(71)の「あと15分ぐらい話す」ことは今の話し手はその実現を望んでいるからこそ、実現されなかったことを後悔するという意味を表している。また、(72)の「子ども用のおしゃれな車いすがある」ことは話し手にとって望ましいことであるが、その実現がされなかったことに話し手の不満を表している。

- (71) 「講演でもそうだ。はじめは厭だ厭だと思う。壇上へあがっても、しばらくは震えている。ところが、終わって拍手があつて、控室に戻ってくると、後15分ぐらい話していてもよかつたなと思つたりする」  
(山口瞳『酒呑みの自己弁護』)
- (72) パラリンピックで見た車いすはスポーティーで格好良かった。病気でなくても、ちょっと乗ってみたいな、と思わせるような子ども用のおしゃれな車いすがあつてもいいのに。  
(毎日新聞 2001.1.23)

一方、中国語の“可以”は、「もいい」と同じく、(73)、(74)のように話し手の後悔や不満を表すことができる。その場合、副詞“本来”や語気助詞“的”を伴わなければならない。語気助詞“的”は、話し手の態度を断定的に表すものである。「もいい」は過去のことを言うとき、テンスを変えることによって、話し手の「後悔」や「不満」を表すことができるが、テンスを持たない“可以”はそれらの副詞がなければ、“可以”だけで「後悔」や「不満」を表すことができず、(75)、(76)のように単に事態の実現が可能という意味を表すことになる。よって、本研究は、「後悔・不満」を“可以”の場面的意味として扱わない。

- (73) 我 当时 (是) 可以 考 得 更 好 的。  
私 当時 は 可能 受ける 補語 もっと いい 語気助詞  
(本来ならもっといい成績が取れるはずだった)
- (74) 你 本来 可以 贏得 比賽 的。  
あなた 本来 可能 勝ち取る 試合 語気助詞  
(あなた本来なら勝てるはずだった)
- (75) 我 可以 考 得 更 好。  
私 可能 受ける 補語 もっと いい  
(もっといい成績が取れる)
- (76) 你 可以 贏得 比賽。  
あなた 可能 勝ち取る 試合  
(あなたが勝てる)

### 3. まとめ

本研究は、中国語の能願動詞“可以”を日本語の複合形式「てもいい」と比べて、従来の先行研究を踏まえて、両形式の機能及び共通点と相違点について、形式の基本的意味と場面的意味から考察を試みた。日本語の「てもいい」には、並列用法と逆接用法がある。本研究は逆接用法を中心とした考察を行った。逆接用法の「てもいい」の基本的意味は「当該事態を受け入れる」である。中国語の“可以”は日本語の助動詞にあたる能願動詞であり、基本的意味は「当該事態に実現の可能性がある」ことである。両形式の基本的意味が異なるため、場面的意味にも違いが生じる。

場面的意味である「許可」「意向」は、両形式における共通したものであるが、両形式の基本的意味が異なるため、「許可」の場合、「てもいい」は聞き手に話し手が当該事態を受け入れるという態度を示すものであるのに対し、“可以”は聞き手に話し手が事態の実現が可能だという判断を示すものである。一方、「意向」の場合、話し手が婉曲に聞き手に伝えることが共通しているが、「てもいい」は話し手が自分の行為を受け入れることを聞き手に伝えるのに対して、“可以”は、話し手が自分の行為に実現の可能性があることを聞き手に伝えることになる。

「許可」「意向」のほか、「てもいい」は「許容」が表せるのに対して、能願動詞の“可以”はそれを表すことができず、形容詞の“可以”を使わなければならない。それも両形式の基本的意味の違いによって生じたものである。形容詞“可以”は能願動詞“可以”と違って、基本的意味は「当該事態を認める」である。望ましくない事態の場合、よく“也”を伴い、話し手が事態に許容することを表す。能願動詞“可以”はほかに「提案」「可能」を表せるが、逆接用法の「てもいい」はそれらを表しにくい。また、「後悔・不満」について、日本語は「てもよかった」という形で、過去に実現されなかった事態に対する話し手の「後悔・不満」を表しているが、本研究は、それを逆接用法の「てもいい」による意味として扱わず、並列用法によるものだと捉える。それに対し、中国語の能願動詞“可以”は単独でその意味を表すことができず、“本来”や“当時”など副詞を伴う必要があるため、“可以”の場面的意味として捉えない。以上の内容をまとめると、次の表2となる。

表2 本研究における「てもいい」及び“可以”の使用について

		「てもいい」	“可以”	
		逆接用法	能願動詞	形容詞
基本的意味		当該事態を受け入れる	当該事態に実現の可能性がある	当該事態を評価する
場面的意味	「可能」	×	○	×
	「提案」	×	○	×
	「許可」	○	○	×
	「意向」	○	○	×
	「許容」	○	×	○

本研究は表2の場面的意味をそれぞれ次のように定義する。

#### (77) 場面的意味

- 「許可」話し手は当該事態の実現を決定する権利を持ち、その権利を求める聞き手にその権利を与える場合である。質問文では、話し手が聞き手に事態の実現を決定する権利を求める場合である。
- 「提案」話し手が聞き手にとって望ましい事態の実現を提案する場合である。
- 「可能」話し手が個人的能力、もしくは客観的条件が備わって、事態の実現が可能であることを聞き手に伝える場合である。
- 「意向」話し手が自分の考えを聞き手に伝える場合である。
- 「許容」話し手が望ましくない当該事態を受け入れることを示す場合である。

#### 参考文献

グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版

朱德熙 (1995) 『文法講義：朱德熙教授の中国語文法要説』 白帝社

高梨信乃 (2010) 『評価のモダリティ：現代日本語における記述的研究』 くろしお出版

森 宏子 (2014) 「助動詞“可以”が表す「勧め」について」『流通科学大学論集 人間・社会・自然編』, pp.27-31, 流通科学大学学術研究会

劉月華 (1996) 『現代中国語文法総覧』 くろしお出版

劉月華 (2001) 『实用現代漢語語法 (増訂本)』 商務印書館

呂淑湘 (1999) 『現代漢語八百詞 (増訂本)』 商務印書館